

この度、埼玉県親善大使としてオーストラリア・クイーンズランド州のイエプーンに派遣されました松田梨沙です。2週間の中で印象に残ったことを紹介します。

1. イェプーンとは

私が今回派遣されたイエプーンという町は、ブリスベン空港から飛行機でロックハンプトン空港へ約1時間半、その後車で約40分北上したところに位置し、海と緑の自然に恵まれた小さな町です。実際に私の滞在したホストファミリーの家はビーチからわずか200mの近さでした。ホストファミリーはいつも好きな時に犬を連れてビーチに行きボール投げで遊んで、生活を楽しんでいました。イエプーンで私は2週間毎日海を見て生活し、更に週末にはセーリングやサーフィンなどのスポーツを楽しむことができました。また、夜空には無数の星が見え、流れ星も人生で初めて見ることができました。朝は早起き、夜は21時には就寝しているという時間の流れの豊かな生活を送ることができました。



更に、オーストラリアでは家族構成が大家族であることが多いです。私のホームステイ先では、ホストシスターが3人、それに加えてイタリアの留学生でイエプーン高校に通う生徒1人を合わせた4人の女の子がいました。親戚が来た時は11人で食卓を囲んだ時もありました。ホストシスター達とは、一緒にビーチに行ったり、映画を見たり、動物園と一緒にいたりと多くの時間を共有し、まるで新たな姉妹が出来たかのように感じられとても嬉しかったです。一人っ子である私にとってこれらの生活はとても新鮮な経験でした。



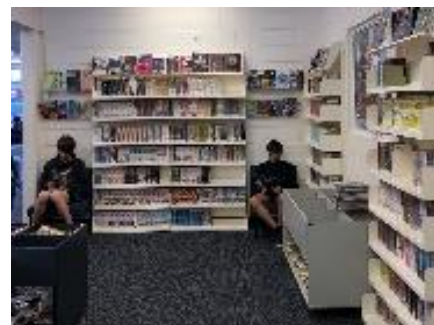
2. 高校生活について

私が今回 2 週間通ったイエブーン高校では、日替わりのバディー(buddy・生活を送る上でのサポート役)を用意していただいたため毎日新たな出会いがあり、様々なバックグラウンドを持つ生徒たちとの会話を通して沢山のことを学びました。

私はイエブーン高校で授業の中で一つ気が付いたことがあります。それは、授業の時、先生が一方向的に喋り続けるのではなく、積極的に生徒とコミュニケーションをとろうとしていたということです。そのおかげで生徒がたくさん発言することができ、意欲的に授業へ取り組む姿が印象的でした。

また歴史の授業に参加した際、日本が登場する第二次世界大戦頃についてを扱っていました。この授業では、日本とは違う視点から戦争について学ぶことができ、新しく知った事実もありました。同じことについて今までとは異なる視点で学ぶという、非常に貴重な経験をすることができました。

イエブーン高校では選択できる第二外国語が日本語のみで、9年生と10年生は日本語の授業が必修となっています。更に毎年日本への研修もあるようで、想像していたよりも日本についてよく知ってくれているという印象を受けました。過去に日本への研修に参加した子は、日本での思い出を話してくれました。更に、学校の図書館には日本のマンガスペースがあり、休み時間には常に何人かがそこでマンガを読んでいて、日本の文化がオーストラリアでも楽しまれていることを嬉しく思いました。



3. 埼玉親善大使として

今回埼玉親善大使として、出発前に埼玉県の魅力アピールするためのパワーポイントを準備して行き、日本語の授業で2回発表することができました。私は埼玉の魅力を「nature, festival, culture, traditional industry, sport」の5つに分けてそれぞれ紹介していきましました。最初に埼玉県という名前を聞いたことがある人は手を挙げてくださいと言うと、約半数の生徒が手を挙げてくれて驚きました。また、最後に埼玉県に行きたくなった人は手を挙げてくださいと言うと全員が手を挙げてくれて、とても嬉しかったです。



また、日本語の授業中や近くのファーンボロー小学校に訪問した際に生徒達に鶴の折り方をレクチャーしました。

ホストファミリーへ日本からのお土産としては、けん玉や折り紙を持って行きました。遊び方をレクチャーすると、幼いホストシスターが特に楽しんで遊んでくれました。更に、日本料理を食べたいというホストマザーの希望もあり、ホストファミリーに日本料理としてオムライスを振る舞いました。イタリアからの留学生を含むホストファミリーみんなが美味しいと言ってきて、更にホストシスターは毎日これを食べたいとも言ってくれました。頑張った甲斐があったと感じ、本当に嬉しかったです。



4. おわりに

イェプーンで過ごした時間は本当にあっという間でした。全ての瞬間が私にとって新鮮なもので、とても密度の濃い 2 週間となりました。日本とは全く異なるオーストラリアの生活をこの身で体験し、価値観を広げることができました。このような貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。今回学んだことや培った英語力を将来の仕事に活かしていきたいと考えています。そして、これからはこの恩返しとして埼玉県に貢献し、このプロジェクトを今よりも更に良いものにしていきたいと計画しています。それを実現するために、他の 2 人と力を合わせて全力で努力していきたいです。